

# 青森県の 市町村 情報

東通村



## 東通村ミニデータ

- 人口 6,527人  
(男3,376人、女3,151人)
- 世帯数 2,840世帯  
(平成30年7月末現在)
- 名産●  
粒うに・蝦夷あわび・ブルーベリー・  
東通牛とその加工品・そば・  
東通天然ヒラメ刺身重

【概況】本州最北端の下北半島の北東部に位置し、北に津軽海峡、東に太平洋と二つの海に囲まれている。大部分が山林・原野で、全体的になだらかな地形となっていて、北東端には寒立馬で有名な尻屋崎がある。

## 東通村発★キラリ

各市町村で活躍するグループ・団体・企業等を紹介します。今回は「観光摘み取り福祉農園 あべらベリー苑」をご紹介します。代表の畑中智子さんにお話を伺いました。



左から、畑中威義さん、智子さん

### 看護職から農業へ シフトチェンジ

平成18年4月、夫・威義さんが病氣治療のため教員を退職したのをきっかけに、夫婦で新たな人生に向かって進むことを決意。元助産師の畑中さんは、この年の秋から夫婦でブルーベリー栽培を始めました。現在は、有機肥料と清流の水、無農薬で35品種のブルーベリーを育てています。

農園のコンセプトとなっているのは4つのW(福祉・Wellfare、木・Wood、水・Water、風・Wind)と、農業・林業・観光・教育・医療・福祉の融合です。また、7月15日から1ヶ月間は観光摘み取り園をオープンし、老若男女が訪れて交流できるプログラムを提供しています。

「夫は農園の技術担当でブルーベリーを育てるために汗を流して知恵を出します。私はマネジメントと経理や販売を担当して、お金も出しますが、口も出しますよ。」と話す畑中さん。夫婦それぞれの得意分野が活かされています。

### 人生は社会貢献のために

農園には手作りの木製遊具やアスレチック、ハンモックがあり、地域の子どもたちから「ブルーベリー公園」と呼ばれる遊び場となっています。

畑中さんは助産師の経験から子育て中の母親の相談に応じ、夫・威義さんは地元の小学生在が地域の特産を学べる教育プログラムを提供。その他、障がいのある人の自立支援としての農業実習、老人福祉施設デイサービス利用者の活動の場、医療・教育関係者の研修プログラムの提供など、農福連携の先駆的な取り組みを実践されています。

自分たちの今日行くところがあることや今日やる用事があることが、健康づくり、生きがいづくりにつながっているといます。魅力ある農園観光での交流を通じて、地域で孤独を生み出さないことや、住民の心身の健康づくりなど、小さくても到達できる目標を地域でつくっていきたいという思いがあります。

農園を訪れる人は口コミで年々増加。これからも、子どもたちが夢中で遊べて親子の交流ができ、高齢者も気楽に立ち寄り、大人にとっては癒しの場を提供していただきたいです。

### 私が男女共同参画を 担当しています

東通村経営企画課  
総括主査  
浅野 和志 さん



東通村では「東通村男女共同参画推進計画」を策定し、性別にかかわらずお互いに支え合いながら社会に参画し、生き生きとした暮らしを営むことができるまちづくりを目指しています。村は農業・漁業・酪農の一次産業が中心です。性別による業務分担の見直し、職場や家庭、地域でバランスの取れたライフスタイルへの転換を図っています。私自身も家事・育児は妻と半々で協力して行っています。役場内では、男性の育児休業の取得がゼロとなっているため、今後の課題として取り組みたいところです。

昨年10月には、下北地域男女共同参画ネットワークで「仕事も暮らしも欲張りLife」をテーマに村内で講演会を開催しました。20〜30代の独身・既婚者、企業の方の参加があり、男女共同参画の理解促進につながる機会となりました。

あべらベリー苑のブルーベリーは、ブルーベリー狩りに訪れた皆様からも好評いただいております。農園には障がいをお持ちの方や子育て中の女性も訪れています。村の今後の課題として「住民の場づくり」が挙げられますが、住民の「コミュニティ」として農園の活動に期待をしています。

(取材：吉町 友美)